

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600066	事業の開始年月日	平成19年4月1日
		指定年月日	平成19年4月1日
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	(〒245 -0016) 神奈川県横浜市泉区和泉町7600		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成30年2月9日	評価結果 市町村受理日	平成30年5月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームいずみでは、「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに、入居者様の気持ちを大切にしながら、笑顔の絶えないホーム作りをしております。一人ひとりが、今持っている力を活かし、掃除・洗濯・料理の準備など出来ることをしてもらい存在意義を実感して頂いております。天気の良い日は、庭にてお茶を楽しみ散歩したりと、穏やかな日々を送っております。</p> <p>職員との共同作業として、段ボール、折紙などを使用し季節毎の飾りを作成しリビングに展示しております。レクリエーションの一環としてラジオ体操をはじめオリジナル体操を毎日元気に行っています。</p> <p>地域との交流では、獅子舞・初詣・こいのぼり大会・盆踊り・子供神輿・子供太鼓などがあり、ボランティアさんによるマンドリン・ギター演奏や、生け花・習字・踊り・お琴などの協力があります。</p> <p>月々の行事やイベントでは、入居者様ご家族様が、近隣の方々と共に楽しんでいます。敷地内の畑では、四季折々の野菜を収穫し、調理を行い季節感を味わって頂いております。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成30年3月10日	評価機関 評価決定日	平成30年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇利用者の思いやペースを大切にした支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暮会所に通う利用者を支援し、刻み食やミキサー食にも対応するレストランを探して皆で外食を楽しむなど、利用者の思いやペースを大切に、楽しく生活できるよう支援している。職員は利用者一人一人の傍で、ゆっくりと会話をし思いの把握に努めている。 <p>◇事業所と地域住民間の交流と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者と職員は、地域の盆踊りや夏祭りなどの行事や清掃に参加し、毎月訪れるボランティアの協力を得て、書道や生け花、ギター演奏、お琴を楽しんでいる。また、お正月には獅子舞が、お祭りでは子ども神輿が事業所を訪れるなど、地域との交流が利用者の生活に彩を添えている。 ・事業所の避難訓練には地域住民も参加し、災害時連絡網に了解を得た近隣住民の連絡先を載せるなど、地域と連携して災害に備えている。 <p>【事業所が工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災委員が中心となり、毎月、想定を変えた避難訓練や安全環境の見直しなどの勉強会を行い、常に防災意識を確認している。 ・お節料理やバースデーケーキ作り、季節の装飾作り、オリジナル体操など、職員個々の趣味や能力を積極的に活用して、利用者の生活を豊かにしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームいずみ
ユニット名	かぼちゃ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関と事務所の目の届く場所に掲示しています。毎月会議の中で月々の目標を決め又年間目標を朝の申し送り時に唱和し、再確認しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・「愛と思いやりのケア・個の尊重」などの理念を玄関と事務所に掲示し、職員は理念を入職時他各種会議で確認し共有している。 ・職員は利用者との交流を大切に、一人一人の思いやペースに併せた支援に努めている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、夏祭りや、どんど焼きには、入居者様と共に参加し、ふれあいを大切にしています。ホームでの行事には、地域の方をご招待し親睦を深めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・正月に獅子舞、祭りには子ども神輿が事業所に訪れ、職員は地域の清掃や草取り、利用者も盆踊りなどの地域行事に参加している。 ・生け花や書道などの地域ボランティアが訪れ、お花見にも付き添いをしてきている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの新聞「ふれあい」を、自治会の回覧板に入れてもらったり、掲示板にも掲示してもらい、ホームの理解を得ています。散歩のときなど近隣の方とのふれあいや会話をしたりと認知症への理解を深めて頂けるようつとめています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して地域との交流を深め、地域の方々から、地域の催事などの情報を得ています。ホームでの行事や事故についての報告を行い、意見交換や指導を頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議には、地域包括支援センター職員や区高齢支援課担当者、家族、自治会関係者、事業所関係者が参加して、2か月ごとに開催し、活動報告後、意見交換をしている。 ・地域の催事やボランティアの情報を得て、運営に生かしている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当者とは、月1回面会し、入居者様の生活情報を伝え、相談、指導を受けています。地域ケアプラザとは、ケアマネ連絡会等の勉強会に参加し、意見・情報交換を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を事業所内で開き、区の担当者に事業所の実情を見てもらっている。 ・区の担当者が会議に欠席した場合、管理者が議事録を届け、会議の状況や事業所の現状を説明している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族会の意向をふまえた上で、外部からの不審者の侵入の心配もあり、安全の為に玄関と各階の入口は施錠することで安全対策としています。	・接遇委員会が中心となり、職員は全体会議やユニット会議で身体拘束についての知識を共有している。法人本部も職員に注意喚起し、拘束をしないケアを徹底している。 ・家族の要望で安全に配慮し玄関やユニット入口は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議などで、虐待防止について勉強会を行っております。又、接遇委員の活動では、言葉による虐待について、具体的な事柄を元に学び、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をすでに利用している入居者様については、後見人と情報交換を行い連携を取り合っています。勉強会を行い、職員の理解を深めるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、出来る限り利用者様やご家族様に見学をお願いし、施設の雰囲気を感じて頂き、不安の軽減に努めています。契約時には十分時間を取って説明し、疑問・質問にお答えし、納得し安心して入居頂けるように心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に意見箱を設けています。面会時には、個別に意見等をお伺いし、家族会にて再度話し合い、その意見を反映していけるよう努めています。	・利用者の意見は日常の会話の中で聴き、家族の意見や要望は面会や電話連絡時、家族会で家族一人一人から聴くほか、意見箱を設置して把握し、運営に反映している ・家族の意見から、車椅子利用者の避難について、消防署員から指導を受け実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を通じて出し合った意見を検討し反映させています。また、必要に応じて本社から担当者に同席してもらい意見や提案を聞いてもらう機会を設け反映させています。	・管理者は各種会議で職員から出される意見と、日常業務での意見を聞き、運営に反映している。 ・職員による防災等の委員会活動や、各行事を担当職員が中心となり、企画実施するなど、職員の意見を反映する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間休日120日の確保とシフトに融通性を持たせ働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には積極的に参加し、発表の場を設け全職員に研修内容が把握できるようにしています。内部では食中毒感染予防やターミナルケア・虐待防止等の研修も行いました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会の研修・意見交換に出席し情報収集に努めています。また、他の施設と職員の交換研修にも積極的に参加しサービスの質の向上に役立てていく取り組みをしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談後、実施調査にお伺いして、実情を把握することによって、ご本人様との信頼を築いています。入居後、行動や表情の変化を見守り、声かけなどを行いながら、ご本人様に寄り添い、不安を和らげるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が話しやすい雰囲気作りをし、その思いに耳を傾け、御家族様の不安を取り除けるように努めています。見学時には年間行事の写真をご覧いただき、ホームへの理解の一助としています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームが、どのような場所であるかをお伝えし、ご理解いただく。御本人様の状態やご家族様の心境などに配慮し、サービスを開始しています。前もってご要望などの思いを書いて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1つの家族であるという認識の元、共用スペースの掃除や食器拭きなどを職員と共にしています。又日常生活を共にする事により関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは、入居者様のホームでの生活の様子を、毎月のお便りにて報告し、行事や家族会へのご参加を頂いております。来設頂いた折には、ご家族様の思いや、ご要望をお聞きし入居者様の支援に反映しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	明るく丁寧な対応をし、気軽に訪問していただける環境づくりをしています。行きつけの美容院や、病院受診など、ご家族様の協力を得ながら支援に努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友人の面会を歓迎し、茶菓を出し寛いで過してもらっている。 ・利用者から友人宛ての年賀状の代筆や家族との連絡などの支援をしている。 ・安心して外泊や外出を楽しめるよう、家族との情報共有を密にしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや散歩等を通し、利用者様同士が会話を楽しんだり協力し合えたりする関係を築けるよう支援しています。毎月製作する壁飾りやカレンダー作りは、個々の能力や個性を生かし、皆で作る喜びを共有し合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、行事などにお誘いしたり又、次の入居先へ訪問や面会に出掛け、交流の場としております。郵便物の返送の折には、近況を伺ったりし、相談支援も行っております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様やご家族様との会話の中で、どのような事を希望されているかを把握すると共に、話しやすい関係をつくっています。意思の表出が難しい入居者様は、日々の生活の様子を観察し、望んでいることを理解できるよう努めています。	・利用者とは、丁寧な会話で利用者それぞれの思いや意向の把握に努めている。 ・意思表出困難な利用者には、表情や態度、生活歴や性格から意向を推察し、申し送りや生活記録などで職員間の情報共有を図り、ケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の今までの暮らしを尊重し、日常生活で行ってきたことは、ホームでも継続できるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを崩す事のないように、現状把握に努めています。小さな変化を見逃さず、状況を把握しながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様やご家族様の望んでいることを把握し、日常の変化など、職員間で情報を共有しています。ケアカンファレンスで話し合い、介護計画に生かして役立てています。	・利用者や家族の意見と生活記録、医療関係者の意見、ケアカンファレンスを基に、原則6か月ごとに介護計画を作成している。 ・毎月のケアカンファレンスでモニタリングを行い、必要に応じて見直しをしている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の個々の身体状況や、言動の変化などを記録する。職員間で共有・理解して確認の上、ケアに生かしている。又、新たな変化も随時記録・伝達して計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様の今現在のニーズの把握に努める。個々の生活史を尊重し、ケアプランに準じながらも、柔軟に変化させたサービスの提供を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方に行事に参加して頂いて入居者様と交流を深めています。ボランティアさんを通じ入居者様それぞれの趣味や特技を生かせるような交流が行われています。又、地域の行事にも参加させて頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問内科医・訪問看護と情報の共有をして、チームによる健康管理の支援を行っている。また、訪問歯科による口腔衛生管理を行っている。かかりつけ医や他の医療機関への受診希望には、柔軟に対応しています。	・かかりつけ医の選択は、利用者や家族に依存しているが、現在全員が2週間ごとに、事業所の提携医の訪問医療を受けている。 ・提携医以外は、原則家族が付き添い通院するが、家族との情報交換を密にし、必要に応じて書面で医師と連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問看護の際、それぞれの入居者様の日々の情報を伝え、共有しています。入居者様に異変がある時は、随時、助言・指示を受けられる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携している医療機関には、定期的な訪問時に情報提供をしている。他の病院でも家族と医師の話し合いには、可能な限り同席をさせて頂き情報収集を行い、治療が速やかに出来るよう支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期に向けて、説明を行うと共に理解を得ています。重度化した場合は御本人、家族のご要望を考慮し、病院、各関係者と連携を密にし、その人らしい終末期を迎えられる様取り組んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始前に利用者と家族に事業所の「重度化対応指針」を渡して説明し、同意を得ている。 ・重度化の過程で、家族に状況を説明し、利用者や家族の意思を尊重してて介護計画を立て、医療関係者と協力して支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて看取りの勉強会を行っていますが、全職員が事業所の重度化対応指針や看取りに関する情報を共有するよう、計画的な研修の実施が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に必要な情報を一つのファイルにまとめ、見やすいところに設置しています。消防署の出張研修を依頼したり、防災委員が研修会に参加して、他の職員にも情報を共有し、勉強会を行い職員が実践出来る様指導している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一回19日に防災に関するさまざまな取り組みを行っています。消防署立会いの下、夜間を想定して避難訓練を行っています。地域の方の連絡先を緊急連絡網に載せさせて頂いたり、訓練に参加いただいたりしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、災害対策の訓練と勉強会を行い、年2回は消防署員が立ち会って夜間想定を含む避難訓練を実施している。訓練には、利用者や近隣住民も参加している。 ・3日分の水や食糧、毛布などを備蓄しリスト化して管理している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、尊厳を保つよう一人ひとりに合った声かけを行っています。又、入居者様の気持ちに寄り添った対応をしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議とユニット会議で、プライバシー確保や人格の尊重、接遇の大切さを学び、個人の尊厳を損ねないように対応している。 ・不適切な対応があれば、管理者はその場で注意し、職員間でもお互いに確認合っている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望や思いを伝える事が出来るような環境作りに努めています。また、一人ひとりの入居者様とお話をする時間を作りそのお話から思いを汲取る事が出来るよう心掛けています。ご本人が判断を決定出来る関係を築いてます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、入居者様の意思や尊厳を保てるよう支援しています。また、状況に応じて個別対応も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みを尊重し、その人らしい見出しなみができる様支援しています。又季節に応じた衣類選びや訪問理美容により好みの髪方も伝え、希望に添える様に支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を話題にした会話をしたり、もやしのみげ取り等、食材に触れて頂く機会を設けています。また食後は食器拭き等手伝って頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・食材と献立は外部に委託し、利用者の好みに合わせて調理している。 ・利用者はできる範囲で、インゲンの筋とりやテーブル拭き、食器拭きなどを手伝っている。 ・職員は利用者と同席し、おしゃべりしながら食事している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取制限のある方や、嚥下障害などその方にあった食事形態で提供しています。食事量や水分量を毎日・毎食記録して、適正な食事・水分の摂取量や栄養バランスの確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、入居者様一人ひとりに合った対応をし、毎食後に必ず行っていただいています。また、定期的に訪問歯科により、口腔ケアを実施し清潔保持に留意して病気の予防につなげています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の生活リズムに合わせてトイレ誘導を行い支援しています。又介助が必要な入居者様にはさりげない声かけを行い自尊心への配慮を行っています。	・利用者の生活リズムと排泄サインを見ながら声掛け誘導して、トイレでの排泄を支援している。 ・声掛けでの誘導や介助を行う際には、羞恥心や不安を軽減するよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し個々に応じ、飲食物に考慮しています。また、訪問Dr・NSと相談しながら排便コントロールを行っています。又、運動などを日常生活に取入れ自然排便に繋げています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルサインや日々のご様子から体調を見極め入浴して頂いています。又、入浴中に会話・唄などを取り入れリラックスして気持ちよく入浴して頂ける様努めています。	・週に3回の入浴が基本だが、安全に気分よく入浴してもらうため、利用者のその日の状態を見て柔軟に対応している。 ・入浴中、利用者は職員といろいろな会話を交わし、また、歌を歌って入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて室温を調整すると共に、冬季には加湿器、または濡れタオルなどにより、湿度も調整する事によって、安眠につながるよう支援しています。又、昼食後に午睡を取っていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を所定の場所に保管し、随時確認できるようにしている。日々の利用者様の状態を医師に報告し、薬を処方して頂いています。服薬時は、氏名・日時・薬袋数を点呼し、カップに薬を入れ、2名の職員が目視確認により、服薬して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみながら体を動かせるようなレクリエーションを考慮して、支援しています。張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を生かした役割・楽しみごとが出来よう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内や近隣に外気浴に行っています。年2回外食会を企画し、参加して頂いています。個々により外出・外食をご家族様と楽しんでいただける方もおります。外食の際は個々にメニューを選んで頂いております。	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩に出かけるのが困難なときは、玄関前の駐車場で外気浴や、ゲーム、体操を楽しんでいる。 ・年2回の外食会や季節の行事、お花見など戸外に出る機会もある。 ・今年の花見はボランティアの協力を得全員で楽しむ予定である。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の残存能力を見極め必要に応じて代行や同行支援をしております。また、預かり金として小口現金ノートを作り管理を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様とのお電話の際は、他の利用者にも配慮しながら、居室で話していただくなどの支援をしています。また、入居者様へのお手紙などは、ご本人様にご覧頂き、のち整理保管していつでもご覧頂ける様にしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等の共用空間に、季節が感じられるカレンダーや塗り絵、壁飾りなどを掲示しています。トイレ、居室、浴室などには、貼り紙をする等してわかり易くしています。照明・空調等入居者様の安全や体調に配慮し、こまめに調整しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングの壁面に行事の写真や利用者と職員が制作した作品を掲示し、畳コーナーにはお雛様やつるし雛を飾り、季節を演出している。 ・廊下にソファを置き、一人になりたい時や仲の良い利用者同士が寛げるように配慮している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファ、畳コーナーなど、さまざまな居場所を造っています。またリビングには、常時パズル、塗り絵、本などを置き、自由に楽しんで頂ける様、配慮工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、御本人の意思を尊重し、家具は使い慣れた物を使用して頂き、ご家族様からの手紙や写真を飾っています。今まで、過されていた空間に近い部屋作りに努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはエアコン、クロゼットが設置され、利用者は使い慣れた家具や日用品、写真、思い出の品々を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。 ・担当職員が利用者との部屋の掃除、季節の衣替えを行っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口やトイレなどに、利用者様がわかりやすいよう、名札やポスターなどを表示している。また、食器拭きや掃除など、できる事はして頂き、危険の無い様見守り支援をしている。		

事業所名	グループホームいずみ
ユニット名	トマト

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関と事務所の目の届く場所に掲示しています。毎月会議の中で月々の目標を決め又年間目標を朝の申し送り時に唱和し、再確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、夏祭りや、どんど焼きには、入居者様と共に参加し、ふれあいを大切にしています。ホームでの行事には、地域の方をご招待し親睦を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの新聞「ふれあい」を、自治会の回覧板に入れてもらったり、掲示板にも掲示してもらい、ホームの理解を得ています。散歩のときなど近隣の方とのふれあいや会話をしたりと認知症への理解を深めて頂けるようつとめています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して地域との交流を深め、地域の方々から、地域の催事などの情報を得ています。ホームでの行事や事故についての報告を行い、意見交換や指導を頂いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当者とは、月1回面会し、入居者様の生活情報を伝え、相談、指導を受けています。 地域ケアプラザとは、ケアマネ連絡会等の勉強会に参加し、意見・情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族会の意向をふまえた上で、外部からの不審者の侵入の心配もあり、安全の為に玄関と各階の入口は施錠することで安全対策としています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議などで、虐待防止について勉強会を行っております。又、接遇委員の活動では、言葉による虐待について、具体的な事柄を元に学び、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をすでに利用している入居者様については、後見人と情報交換を行い連携を取り合っています。勉強会を行い、職員の理解を深めるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、出来る限り利用者様やご家族様に見学をお願いし、施設の雰囲気を感じて頂き、不安の軽減に努めています。契約時には十分時間を取って説明をし、疑問・質問にお答えし、納得を得た上で安心して入居頂けるように心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に意見箱を設けています。面会時には、個別に意見等をお伺いし、家族会にて再度話し合い、その意見を反映していけるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を通じて出した意見を検討し反映させています。また、必要に応じて本社から担当者に同席してもらい意見や提案を聞いてもらう機会を設け反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間休日120日の確保とシフトに融通性を持たせ働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には積極的に参加し、発表の場を設け全職員に研修内容が把握できるようにしています。内部では食中毒感染予防やターミナルケア・虐待防止等の研修も行いました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会の研修・意見交換に出席し情報収集に努めています。また、他の施設と職員の交換研修にも積極的に参加しサービスの質の向上に役立てていく取り組みをしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご要望をお聞きし、ご本人の状態に合わせ、ご本人様が安心できるような関係づくりに努めています。またご本人の状態やご家族様の心境に配慮しサービスを開始しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご要望・ご相談に真摯に向き合い、お応えしながら、信頼関係づくりに努め、出来る限り不安を取り除き安心して生活がスタート出来るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームが、どのような場所であるかをお伝えし、ご理解いただく。御本人様の状態やご家族様の心境などに配慮し、サービスを開始しています。前もってご要望などの思いを書いて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家族であるという認識のもと、職員と共に出来る事を行い助け合い支え合って日常生活を送り暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでのご様子を近況報告でお伝えすると共に、行事や家族会を通じご本人様とご家族様の絆を大切にしながら、職員との関係も密にし共にご本人様を支えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居前に大切にしてきた馴染みの人や場所を関係が途切れないように、できるだけ外出できるよう支援しています。また、ご友人の方も訪問しやすい雰囲気作りをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や、利用者様同士の関係を把握し、それぞれの個性を生かしながら、より良い環境作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、行事等へのお誘いの電話やご案内をしてこれまでの関係性を大切にしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向を、普段の生活の中で、日常会話からくみ取りながら、把握するように努め、ご希望に添えるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様などと良くお話をし、ご入居前の生活歴や、サービス利用等の把握に努める。生活歴を反映させた、馴染みの暮らしが出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの基本的な生活パターンの把握に努め、心身状態の変化などを、細かく記録して、現状の把握に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の変化や課題に対し、ケアカンファレンスを行い必要に応じ医師の相談、指示を仰ぎご家族様に伝えていく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人一人の一日の様子や気づき変化などを個人記録に記入し申し送り職員間での情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から、利用者様の健康状態を把握する。特変など、異常時は、速やかに訪問内科・訪問看護と連携すると共に、種々期間への送迎・付添といった対応も柔軟にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方に行事に参加して頂いて入居者様と交流を深めています。又地域のボランティアを通じ入居者様それぞれの趣味や特技を生かした交流に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問内科・訪問看護との連携を取ると共に、利用者様が希望する医療機関などへの受診できるよう対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護等には、日々の心身の状態や情報・気づきを伝え指示を受けながら、利用者様が適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問内科・訪問看護と定期的に情報交換をし、入退院時においても適切な対応が出来るように支持協力を得ています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時には、終末期についての説明は行っています。重度化・終末期の場合の取組対応としては、本人御家族の要望を取り入れながら、今後の治療に向けての話し合いを行い、医療との連携を密にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて緊急時における対応の講習及び実習を定期的に行い全ての職員が対応できるよう実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指示の元、防災訓練を行っています。また、毎月1回災害時の避難や準備を行っています。地域の方のご協力・ご参加を頂く体制も築いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、尊厳を保つよう一人ひとりに合った声掛けを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望や思いを伝える事が出来るような環境作りに努めています。また、一人ひとりの入居者様とお話をする時間を作りそのお話から思いを汲取る事が出来るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムやペースを大切に、入居者様の意思や尊厳を保てるよう支援しています。また、状況に応じて個別対応も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みを尊重しその人らしい身だしなみが出来るよう支援しています。また、季節に応じた衣服選び等も行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を話題にした会話をしたり、もやしひげ取り等、食材に触れて頂く機会を設けています。また食事前のテーブル拭きや食後の食器拭き等手伝って頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取などを記録し、1日に必要な摂取量を確保すると共に一人一人の状態に合わせた食事形態を行いバランスの取れた食事が出来るよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、一人ひとりに合った口腔ケアを実施して頂いています。また訪問歯科にてクリーニングを行う場合もあります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の生活リズムに合わせてトイレ誘導等を行い支援しています。また、介助が必要な入居者様には定時に声掛け・誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、個々に応じ飲食物に工夫しています。また訪問Dr・NSと相談しながら排便コントロールを行っています。毎身体操を行い、便秘の予防支援をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルサインや日中のご様子から体調を見極め、入浴して頂いています。また、入浴中に会話・歌などを取り入れ楽しい時間を過ごして頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は共有スペース各居室で休息を取っていただいています。夜間は各居室の温度や寝具の調整を行い冬季には加湿器を使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、必ず名前を確認し、御本人様の前で名前をお呼びして、再度、確認をしてから服用して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いが持てるよう入居者様一人一人が日常生活の中で体操やレクリエーションをして頂けるように対応しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内や近隣に外気浴に行ってます。年2回外食会を企画し参加して頂いています。個々により、外出・外食を御家族様と楽しんでおられる方もいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の残存能力を見極め必要に応じて代行や同行支援をしております。また、預り金として小口現金ノートを作り管理を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各入居者様の状況や御様子を毎月お手紙や、写真でお知らせし、随時お電話にてお伝えしています。又利用者様の要望に応じ電話を利用して頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に行事の写真や入居者様と一緒に作成した装飾品を飾っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは自由に過ぎて頂ける場を設け入居者様同士の談話やテレビ鑑賞しています。居心地の良い場所になるよう日々工夫しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には御本人の意思を尊重し、家具は使い慣れた物を使用していただき、御家族様からの手紙や写真を飾っています。今迄過ごされていた空間に近い部屋作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に名前を付け認識して頂き自由に行きき出来るよう支援すると共に安全な生活が出来るような工夫をしています。自立支援が出来るよう残存機能を見極め理解し安全に過せる生活を支援しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームいずみ

作成日 平成30年5月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	ご家族様や職員のメンタルケアの必要性が求められる。	重度化や終末期に向け対応できる職員教育をしていく。	ご本人、家族のご要望を配慮し、主治医や各関係者との連携を密にし、その人らしい終末期を迎えられるような対応や心得を定期的に研修、勉強会を実施し学んでいく。	12か月
2					
3					
4					
5					